

## 薬剤部 DI ニュース

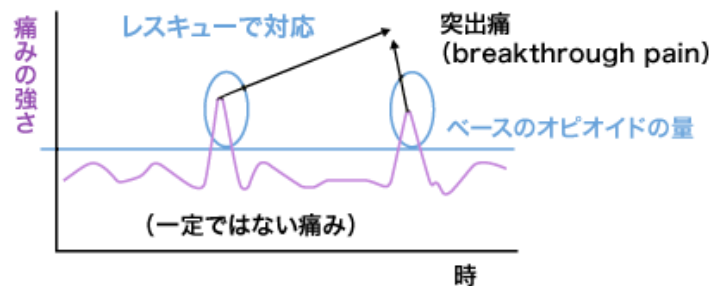
## 医療安全管理について(シリーズ13)

### ～ 複雑な麻薬(アブストラル舌下錠)の用法について ～

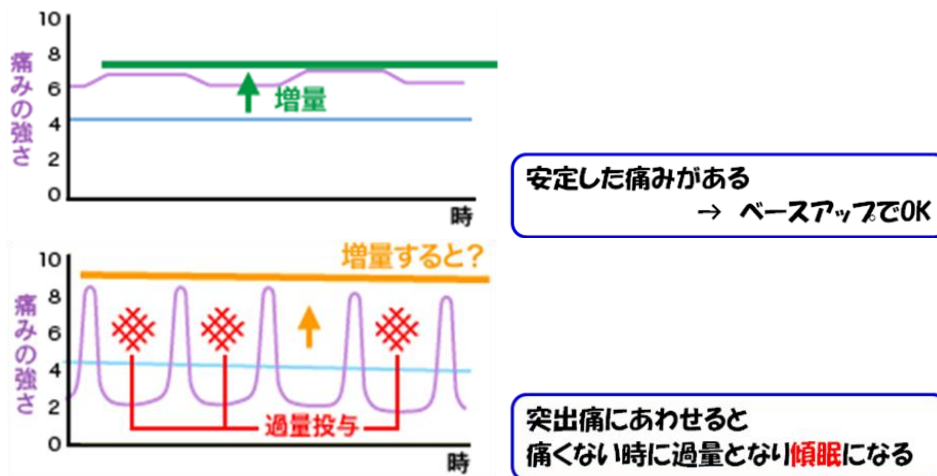
突出痛に用いられるフェンタニル製剤である「アブストラル舌下錠 100」は「強オピオイド鎮痛剤を定時投与中の癌患者における突出痛の鎮痛」に適応のある薬剤です。この薬剤は用量の調整段階での服用方法や1日の回数制限など特徴的な薬剤です。今回はアブストラル舌下錠について図を中心にお示しします。

#### 【突出痛について】

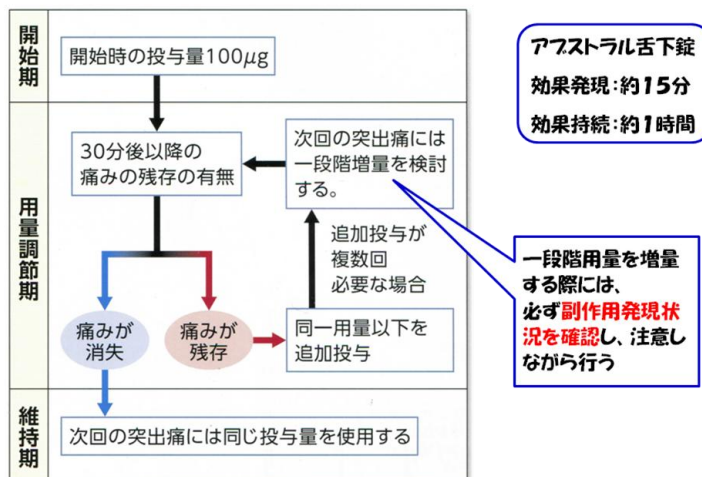
突出痛とは「持続痛の有無や程度、鎮痛薬治療の有無にかかわらず発生する一過性の痛みの増強」のことで、持続痛「24時間のうち12時間以上経験される平均的な痛み」として患者によって表現される痛み。」とはこととなります。



仮に突出痛にあわせてベースアップを行うと以下のような問題が起こることがあります。

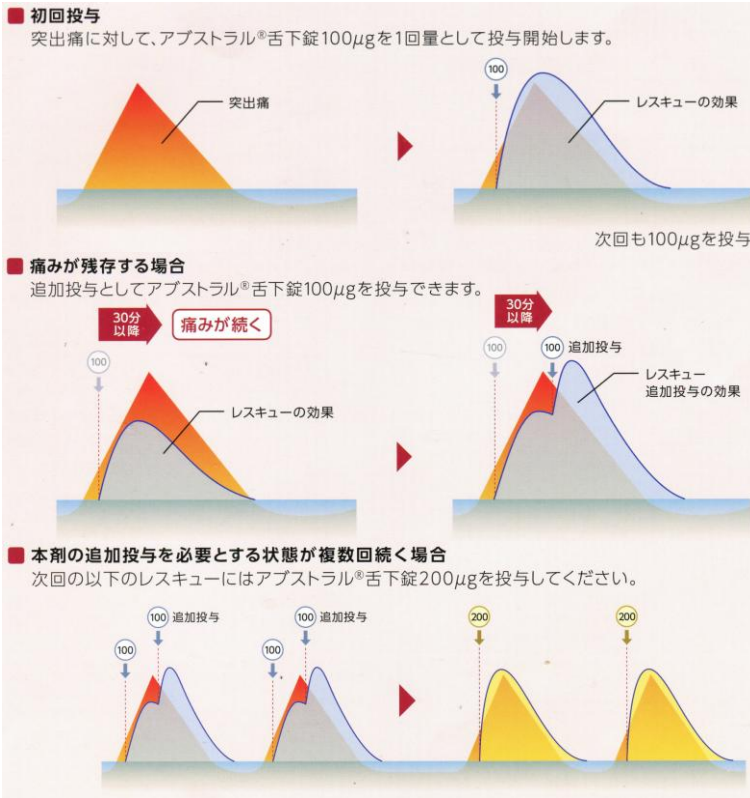


#### 【アブストラルの投与量設定の基本フロー】

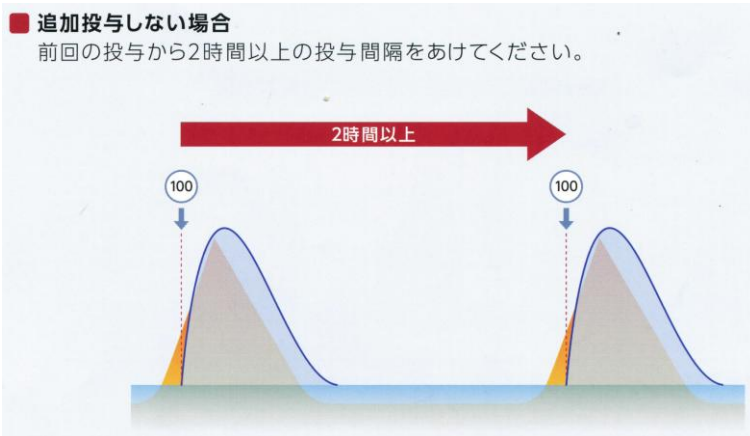


(製品ガイドより改変)

## 【用量調節の方法】



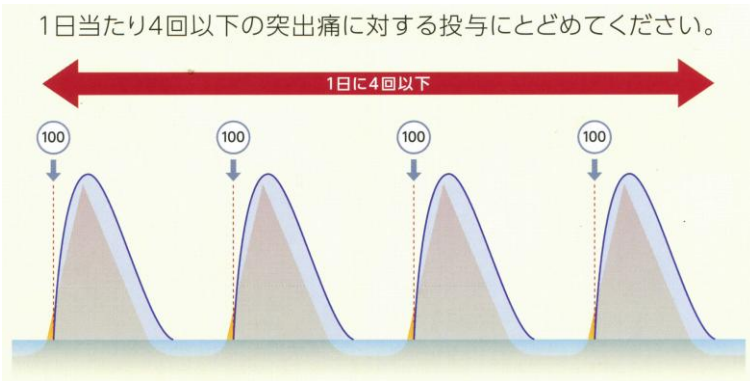
## 【投与間隔】



**2時間以上**

- 追加投与の際は突出痛に対する最初の投与から30分～2時間の間に行う
- 追加投与を行った場合も、次の突出痛に対する投与は初回の投与から2時間以上間隔を開ける

## 【1日の投与回数】



**1日に4回以下**

- 1日に4回を超える突出痛の発現が続く場合にはがんに伴う持続性疼痛に使用されているオピオイド鎮痛薬の増量の検討が必要

## 【主な副作用】

- 眠気
- 呼吸抑制

眠気は呼吸抑制に先行して発現するため、過量投与のチェックポイントになります。